

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	茨木市児童発達支援センターあけぼの学園		
○保護者評価実施期間	R6年1月10日 ～ R7年3月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年3月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年3月30日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8 (回答数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象児の様子や所属先の環境に応じて支援に対する知識や技術等の提案、助言を行っている。具体的でわかりやすいため取り入れやすく、課題や困りごとの解消につながっているとの評価をいただきました。	研修や、講座等の受講などを通して専門性の向上に努めています。	今後も様々なケースについて、対象児の様子に合わせて有用、有効な提案ができるように引き続き努めてまいります。
2	訪問支援の際には訪問先と支援内容について話し合わせ、実施後には保護者に対して適切な共有がされている。	訪問先（所属先）との協力関係の下、共通認識を持って効果的な支援につながるように話し合いの時間を持っています。また、学校、家庭で共通認識を持ち、連続した支援で効果をあげられるように十分な話し合いや情報伝達の機会を設けています。	今後も引き続き家庭と学校を繋ぐ役割も含め、こどもの支援に関して3者（家庭、訪問支援員、学校）が納得の上、共通認識を持って統一された支援に当たれるように訪問記録等丁寧に説明・共有してまいります。
3	定期的な保護者や訪問先の意向確認の時期、記録説明やモニタリング、計画について必要性を判断して、適切な見直しを迅速に行なっています。	6か月毎の見直しや、モニタリングに限らず、毎回の訪問で観察されたこどもの様子を所属と共有。スピード感も持って対応し、より適切な目標の設定と支援が継続できるように見直しています。	今後も引き続き丁寧な観察、モニタリングを通じ、必要に応じて柔軟に支援目標と支援方法の見直しを行ってまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	待機の解消について。	合理的に訪問できるようにするために、支援開始までのスケジュールや開始後の訪問月を調整すること。	・一人当たりの訪問人数を広げられるよう訪問月や対象人数を調整。また相談（申込者）の困り感への早急な対応として、電話、対面での相談で話を聞きながら保護者や、必要に応じて学校への状況の確認とアドバイスなど柔軟な対応についても検討してまいります。
2	訪問先で事故等があった場合の確認について。	当事業所では事故発生時の対応や、保障について契約時に「利用契約書」「重要事項説明書」で説明しているが、訪問先との緊急時の対応の連携等については契約時のこちらの対応（上記）を含め周知、確認や説明が不十分でした。	所属先への保育所等訪問支援開始時に訪問支援の目的・意義、概要について説明する際に緊急時の対応、及び安全の確保について確認し共有してまいります。
3	保護者に対して、訪問支援児に使用する教具、教材の工夫についての説明について。	口頭、あるいは実際の教具、教材の説明だけではなく実際に使う場面等を写真やビデオなどで見てもらうなどの工夫や配慮に欠けていました。	あらためて教具、教材の使用があればどのような目的で使うかを事前に説明します。また使用中のこどもの様子など所属先に許可を得て写真撮影する等して、口頭だけでは伝わりにくいこどもの様子についてわかりやすく伝える工夫をしてまいります。